

松本市周辺の身近な絶滅危惧植物のゆくえ (1)

土田 勝義*

The Future of Familiar Endangered Plants in Matsumoto City Around (1)

Katsuyoshi Tsuchida

はじめに

長野県で絶滅の恐れのある野生動植物、いわゆるレッドデータブックが出版されはじめたのは2002年からで、維管束植物編は最初の2002年に発刊されている(長野県2002)。その後2014年に植物編レッドリストとして改訂版(長野県2014)ができて現在に至っている。当初からほぼ20年の歳月がたっている。筆者はレッドリストに記載されている絶滅危惧種について、自分の行動の及ぶ範囲で、いくつかの植物種の生育状態、消長などを調査してきているが、それらのいくつかは次第に姿を消しつつあるのを実感している。そのため以前、「失われゆく植物たち—長野県レッドデータ植物図鑑」(土田編2017)を出版し、絶滅危惧種や生物多様性の保全をPRした。その後も継続してこれらに掲載された、いくつかの種の動向を追跡し、またさらに新しく得られた資料をもとにその続編を考えている。なお、かつてはごく普通に生育していた身近な植物が、最近では消失したり、絶滅状態となってレッドリストにあがっているものがいくつかあるが、これらも現在はさらに絶滅危惧度が上がっているものがある。ここにあげたのは筆者が生活している松本市とその周辺の身近な場所でのレッドリスト記載種の調査、観察である。これらは長野県中を見れば、どこかで生育しているだろう。また長期の期間をとれば、身近で消失している植物はたくさんあるであろう。しかし、ここ数年、自分の身近になんとか生育している絶滅危惧植物が目前で短期間に、年々消失していくのを黙ってみていることもできず、せめてその動向を記録として残しておきたい。なお環境省のレッドリストのカテゴリーは最新の2020年版を使用した(環境省2020)。

身近な絶滅危惧種

1. イヌノフグリ 長野県VU 環境省VU

イヌノフグリはオオバコ科の一年生の植物で、かつては家や田畑の周囲、路傍などにふつうに生育していたようだが、今ではほとんど見かけない。外来種のオオイヌノフグリやタチイヌノフグリの繁殖に押されて消失してしまったという説が有力であるが定かではない。筆者は松本市内や安曇野市などを見て回ったが、見つけることはできなかった。たまたま、知人からその生育場所を教えていただき、幸いにも確認できたが、なんとある家の塀の石垣にしがみつくように数個体が生育していた。小型だがピンク色の美しい花を咲かせる。筆者は2年間ほど観察していたが、3年目の開花期に訪れたところ、これらは他の雑草とともにきれいに掃除されて跡形もなくなっていた。翌年以後もみられていないのでこの場所では絶滅してしまった。イヌノフグリはこのような非競争的環境に逃げ込んでかろうじて生育していたのだろう。もちろん筆者はその後周辺だけでなくできる限り各地の石垣などを探したがまだ見つからない。ちなみに信州大学の構内のある場所に生育しているという教示をえたが、2年間見つけることはできなかったのでここでも失われたと思われる。

2. ニシキソウ 長野県VU 環境省—

ニシキソウはトウダイグサ科の一年生の小型植物で、地面を這うように生育している。やはり畑、路傍、地面など身近な場所に見られる。筆者は市内の駐車場でその生育を確認できた。ここでは外来種のコニシキソウが地面に広範囲に生育しており、また外来種のオオニシキソウも路傍に生育が見られた。地面にコニシキソウと混在して生育していると思っていたが、ニシキソウは植栽樹木の植え込みにかなりの個体数が見られた。3年間観察していたが、個体数は年によって変動があり、数個体から数十個体まであった。また秋口に個体数が増してくる。ニシキソウも筆者は市内や安曇野市の各所を見て回ったが他所では見つからなかった。ところがいつのまにか当

* 土田 勝義 長野県松本市 nalpus@pop02.odn.ne.jp

地が道路改修で更地となってしまう消失してしまった。

3. オナモミ 長野県 V U 環境省 V U

オナモミはキク科の一年草または多年草で、路傍、荒地、河原などに生育する。果実はとげが多数あり、ひつつき虫とかバカと呼んで、子供の頃よく遊んだものである。この種もほとんど絶滅したと思われていた。かつて河原や路傍で見ていた記憶があり、河川調査などのおりよく探したが、外来種のオオオナモミやイガオナモミしか発見できず、自分では幻の植物と思っていた。たまたま一昨年の夏に市内の山中にある池を散策していて水辺に絶滅危惧種の水生植物のクロモを見つけて喜んでいたら、水際の地面にそって数個体のオナモミを発見することができた。このような隔離したところに生育しているのは、水鳥などによって果実が運ばれてきたのかもしれないし、自生かもしれない。しかし昨年は池の水かさが増して、水際がなくなってしまい、生育地が無くなってしまった。何度も訪れたが一年中水面が下がることなく、ついに生育は見られなかった。今年はどうなるのであろうか。

4. タカサゴソウ 長野県 V U 環境省 V U

タカサゴソウはキク科の多年草で、草原、河原、荒地などに生育する。数年前、情報を得てよく行く安曇野市のある山地公園に探しに行った。なかなか見つからなかったが、ようやく片隅で数個体見ることができた。人の踏みつけにあう場所なので絶滅寸前という状況であった。その場所で2年間は見ることができたが、その後毎年出かけているが生育が見られない。筆者はその間、天竜川の支流の大田切川の河原で見ているので、他所では生育が見られるのであろう。いずれにしろこの公園は多様な野生植物が生育していることで有名でありそれらの存続を期待したい。

5. アズミノヘラオモダカ

長野県 C R 環境省 E N

アズミノヘラオモダカはオモダカ科の多年草で水田、放棄水田などに生育する。この種は旧穂高町(現安曇野市)で発見されたのでその名がつけられた。分布地が限られ、岐阜県その他、長野県では松本市、安曇野市、木曽町、小谷村のごく一部に生育している(石田他 2016)。筆者はかつてよく知られた松本市岡田の生育地で数年前に探したが、土地改変が

行われており見つからなかった。その後名前の通りの安曇野市の各地の水田等をできる範囲で見て回ったが見つめることはできなかった。作物転換、圃場整備が進んだことや農薬使用により、他の水田雑草とともに減んだのであろう。この種も私の幻の植物であった。しかし昨年偶然、松本市のとある水田の水取り口で数個体見つけることができた。1年間観察していたが、所有者の田の手入れ次第で風前の灯火である。今年に残るであろうか。

6. キンラン 長野県 E N 環境省 V U

キンランはラン科の多年草で、低地の林内に生育する。身近な植物とはいいがたいが、筆者の見ているのは、ある町の市街地の水田のすぐ横のスギ植林地であり、距離的、地形的には身近である。この生育地で花期のものを10数個体見ることができた。しかしなんとなく不吉な予感がしたので2週間後に再び同地を訪れたところ、ほとんどの個体がニホンジカの食害を受けていた。今年はそのダメージにどのくらい耐えて開花するか心配である。

7. スズサイコ 長野県 N T 環境省 N T

スズサイコはキョウチクトウ科の多年草で、路傍、川岸、田畑の周囲、乾いた草地などに生育する。筆者は以前より天竜川の植物調査を行っており、また河川水辺のアドバイザーとして種の情報を得る立場であった。そのため同種の生育を確認したく、得られた情報を元に数年天竜川や支流の生育地を探したが発見できなかった。この種はそれほど希産種ではないようで、各地で見ている人も多いと思われるが、筆者のレベルでは発見できなかった。しかし一昨年、白馬村のある地区の水田付近の路傍で見ることができ、ここ2年間観察している。圃場整備予定地区になっており、村の有志が私的に保全に取り組んでいるが、その管理に相当苦勞されておられ、もし放棄、ないしは圃場整備されたらやがて消失していくと思われる。

8. ミクリ 長野県 V U 環境省 N T

ミクリはガマ科の多年草の水生植物で、水田の水路、池、沼、河川など身近な場所に生育する。30年ほど前の天竜川の河川水辺の調査では、ミクリは天竜川では数カ所にしか生育していないことがわかっていった。あるとき最も生育個体数が多かった場所が、河川改修で全消失することになり、移植に関わるようになった。移植法を研究しすべてを他所に

移植したが、また移植先が河川改修で消失することになり、更に他所に分散移植した。しかしそれらの場所も更に改修が起こり再移植されて劣化して消失したり、また移植地がヨシやマコモに覆われて衰退してきている。

9. アサマヒゴタイ：未記載

アサマヒゴタイはキク科の多年草で、山地の林内、林縁などに生育している。まだ長野県のレッドリストに載っていないが、現在では対象にすべき種ではないかと思われる。筆者は数年前によく行く山の林道脇の法面に開花個体群を見つけた。その後毎年観察しているが、林道脇なので道路に改修が入ったりして、生育地が荒らされ、ここ数年はとみに個体数が少なくなっている。他の植物も入ってきておりそのうち消失してしまうであろう。

おわりに

その他身近な植物ばかりでないが以上を含めて、国、県のレッドリストに記載されている植物、アツモリソウ、キバナアツモリソウ、フナバラソウ、レンリソウ、イチリンソウ、ツツザキヤマジノギク、ハナネコノメ、ジロボウエンゴサク、エンコウソウ、タヌキマメ、ノダイオウ、ヒメヒゴタイ、キスゲ、サクラソウ、ホソバノツルリンドウ、イヤリトリカブトなど、また記載されていなくても希少種、例えばワダソウ、ミヤコグサ、ヒメハギ等の自生地の生育状況を毎年観察してきているが、特にニホンジカの採食、土地改変、管理放棄などにより個体数が減

少したり、生育が劣化しているのが多い。長野県でも絶滅危惧種を含めいろいろな野生植物が絶滅したり、消失していく姿を多くの方が見ていると思われるが、情報を出しあっていくことも必要と思われる。

昨年末、横内文人氏が「松本平の植物 2021」（横内 2021）を発刊されたが、当地で過去から現在まで確認された植物種を市町村別に一覧表にまとめたもので、当地の植物の分布やその存否を知るのに非常に役立つ。本論でも利用させていただいた。

なお次期の長野県レッドデータブック（あるいはリスト）の早期作成を期待したい。

参考文献

- 石田祐子・武生雅明・秋田由樹・増馬健太・前田瑞季・大塚孝一 (2016) 長野県北安曇郡小谷村におけるアズミノヘラオモダカ（オモダカ科）の自生地確認．長野県環境保全研究所研究報告 12:19-33
- 環境省 (2020) 環境省版レッドデータリスト
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック維管束植物編
- 長野県 (2014) 長野県版レッドリスト植物編
- 長野県植物目録編纂委員会 (2017) 長野県植物目録 2017 年版
- 土田勝義編著 (2017) 失われゆく植物たちー長野県レッドデータブック植物図鑑．信濃毎日新聞社
- 長野県林業コンサルタント協会編 (2011) 信州の希少植物と森林づくり．オフィスエム
- 横内文人 (2021) 松本平の植物．クラフト舎．